

しまつて置きなさい」「今日バナラマを見せて上げ  
た事は歸つても兄さんに言はずに置きなさい」な  
ど、いふ事は一寸罪のないやうに考へられて、つ  
ひ言ふ事もあるか知れませんが、其實なか／＼罪  
があるので、こういう考が万事に及ぶと、やはり  
無意に秘密といふ事を幼児に注ぎ込む場合が多く  
従てかげひなたのもとになる事が多くございま  
す。

かげひなたはおそるべき不正直の源ともなる事  
を知つた以上、幼児に一點でもそらいふ事のない  
やうに、感化を興へ訓へ導いて、天真爛漫な無邪  
氣な、正しい善い事は何時如何なる處でもする、  
悪い事は何時如何なる處でもしないといふかげひ  
なたのない、正直な兒にしたいものでございませす。

## 家庭閑話

### そのの子

▲出産の報知に接して『男のお子さんでしたか』と  
の挨拶は禁句なり。必らず『お嬢さんでしたか』と  
問ふべきにこそと、さる老巧の人の語らるゝを聞  
きぬ。生れたる子若し女なりしならんには、左な  
きだに失望せる人の口より『どいも女の兒でして』  
と挨拶せしむることの、いと氣の毒に覺ゆべきに、  
後の間に對してならんには、生みたる人も左程に  
は思はざるべく、若し男の兒ならんには『イ、ヤ  
男でした』と元氣よく答へらるべければなりとの  
ことなり。

▲あはれ女はどつちらなきものはあらし、まさか  
に木のはしの様にいはるゝにはあはねど、現在  
生む母親すら、男の兒をと希ふめり。

▲さればとて、世に女なからましかば、男一人にて如何にかあらまし、人には女の子生れよ、吾は男の子をなど願ふは、さても人の心の勝手なるものよ。

▲子の可愛さになれて、いつまでも乳を巳むることの思ひ切りがたき母親こそ、いと心得ね。

一通りの教育を受けたる人にありてはことさら。一年を経て幼児に齒の生るは、もはや哺乳の必要なしとの自然の指教とこそ聞きつるに、誕生過ぎて尙乳もて育つること、母子共に害を受くる覺悟ならんには、儲も是非なしとやいはん。

▲子供を添寝させることも厭したきことにこそあれ。乳房もて呼吸をとめ、窒息せしむる實例は、日々の新聞紙に絶えずかゝげらるゝにあらざるや。

▲女中を使うは心すべきことなり。下婢に對する

秘訣は奉公人とせず、家族の一人として、面倒を見てやるべきなり。奉公人あしらひにする時は所謂奉公人根性を出して、なかく使ひにくくなるなれども、家族として對ふ時は、眞實家の爲を思つて働くに至るものなり。

▲一般に家庭のことは、内部的に屬す、されば妻にして、夫の事を他に訴へ、夫にして妻に對する不平を他に泄らし、若しくは兄弟互に他に向つて相識るが如きことは、許すべからざることなりと或書に記されぬ。

▲無邪氣なるが愛らしとて、二十才にも足らぬうら若き少女を娶る男こそ、いと心得がたけれ、さるは妻を器具と同じく見んとする謬見なりかし。一月二月の程こそはよけれ、遂には、何事にも氣の利かぬに業を煮やすに至るべし。

▲女學生上りの奥様の、兎角非難せらるゝは常識に缺けたる節の多きことなり。かにかくと常規づくめの書物の上にかゝつらいて、理屈のみは振り回はせど、もとゝ書物といふは、大凡の場合を記せるに止まれば、實際世の中に出で、は、書物以外のことは、幾らも出で来るなり。學校生活をなさぬ人は、いろゝと年長者につきてその経験をすれど、學校生活にのみ心を傾けたる人は、その經驗なきため、極めて通常の考に通ぜずして、さまゝの可笑しき振舞に陥るなり。

▲似た者夫婦といふことあり。これは似た者が互に夫婦になるといふにはあらで、似た者が夫婦で居るといふことなり。詳にいへば、始は似ざりし男女の、夫婦になりて後互に、其嗜好、其性癖等の相似よることをいふなり。これでこそ、夫婦

は異體出身ともいはれぬ。もし似ぬもの夫婦にてもあらんには、其夫婦こそは、まことに融和といふものを得たるものとはいはれじ。相互の感化といふこと、これ實に夫婦間の要素とぞいふべき。

昔いろいろは料理

石井泰次郎

(一七)

◎小板玉子の拵方

これは小板かまぼことて、小さき細き板にかまぼこをつくる形に似たるゆゑに小板とはいふなり、玉子を煮ぬき玉子にして、からを去りて、二つに堅に切て黃身を取り出して、其あとへ、山椒みそなどねりたるを入れて、小板につけてあぶりて出すなり、